

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-272622

(P2000-272622A)

(43) 公開日 平成12年10月3日 (2000.10.3)

(51) Int.Cl.

識別記号

F I

タームコード* (参考)

B 6 5 D 5/74

B 6 5 D 5/74

F 3 E 0 6 0

83/04

83/04

E

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号 特願平11-77737

(22) 出願日 平成11年3月23日 (1999.3.23)

(71) 出願人 000238005

株式会社フジシール

大阪府大阪市鶴見区今津北5丁目3番18号

(72) 発明者 橋本 忠

大阪市鶴見区今津北5丁目3番18号 株式

会社フジアルファ内

(74) 代理人 100074332

弁理士 藤本 昇 (外2名)

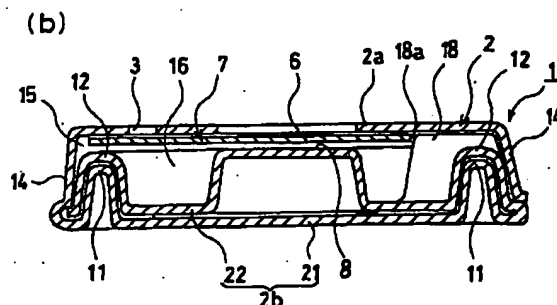
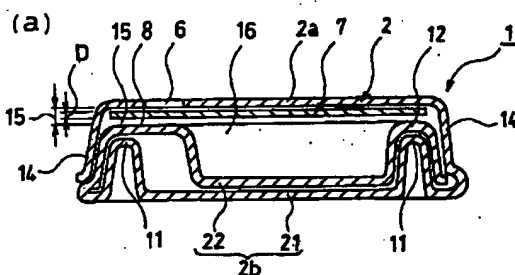
Fターム (参考) 3E060 CF10 CF16 DA17 EA13

(54) 【発明の名称】 開閉板付き容器

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、開閉時に開閉板を離脱させず、良好に開閉板を開閉して取出口を開閉することができる開閉板付き容器を提供することを課題とする。

【解決手段】 収納された被収納物を取出可能な取出口3が形成された容器本体2と、前記容器本体2にスライド可能に設けられ、且つ前記取出口3を開閉可能な可撓性を有する開閉板7とを備え、前記開閉板7の表面側が、容器本体2に形成された操作孔6から露出されており、その露出面を押さえながら開閉板7を操作孔6に沿ってスライドさせることにより前記取出口3が開閉される開閉板付き容器に於いて、前記容器本体2には、開閉板7の裏面側のうち、少なくとも露出面の押さえ部分に対応する裏面側を支える支持部8が設けられていることを解決手段とする。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 収納された被収納物を取り出可能な取出口(3)が形成された容器本体(2)と、前記容器本体(2)にスライド可能に設けられ、且つ前記取出口(3)を開閉可能な可撓性を有する開閉板(7)とを備え、前記開閉板(7)の表面側が容器本体(2)に形成された操作孔(6)から露出されており、その露出面を押さえながら開閉板(7)を操作孔(6)に沿ってスライドさせることにより前記取出口(3)が開閉される開閉板付き容器に於いて、前記容器本体(2)には、開閉板(7)の裏面側のうち、少なくとも露出面の押さえ部分に対応する裏面側を支える支持部(8)が設けられていることを特徴とする開閉板付き容器。

【請求項2】 前記容器本体(2)が、シート成形によって形成されている請求項1記載の開閉板付き容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、収納された菓子等の被収納物を取り出す取出口が形成され、且つ該取出口を開閉する開閉板が具備された開閉板付き容器に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、収納された菓子等の被収納物を取り出される取出口を開閉する開閉板の設けられた開閉板付き容器としては、例えば、図8に示すような開閉板付き容器が知られている。即ち、天面部31aに菓子等の被収納物を取り出す取出口32が穿設され、且つ該取出口32の近傍に長状の操作孔33が穿設されていると共に、内部に被収納物を収納可能な収納部34が設けられた中空状の容器本体31と、該容器本体31の天面部31aの裏面に近接して設けられ、且つ取出口32を開閉する開閉板35とからなり、該開閉板35は、操作孔33の長手方向に沿って形成された断面コ字状の一对の保持溝36、36に嵌入挟持されてスライド可能に設けられてなる開閉板付き容器30が知られている。

【0003】かかる開閉板付き容器30は、操作孔33から露出した開閉板35の表面を、指で押さえながら操作孔33の長手方向(図中の矢印方向)にスライドさせることにより、取出口32が開閉できるものであり(図中、開口状態を二点鎖線で示す)、上記構成からなる開閉板35は、容器本体31の側壁部等から突出することなく、又、不用意に開閉板35がスライドしにくいという利点がある。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従来の開閉板付き容器30は、通常、開閉板35は、板状の樹脂成形品で形成されているが故に可撓性を有し、しかも、該開閉板35は、その両側縁が保持溝36、36に挟持されたものであるため、指で開閉板35の露出面を押さえると、その押圧力により開閉板35が湾曲し、

よって、開閉板35を開閉し難く、更に、余りに強く押さえると、開閉板35が保持溝36、36から離脱し、容器本体31内に落ち込むことがあるという問題点があった。

【0005】さらに、上記従来の開閉板付き容器は、通常、合成樹脂の射出成形品(射出成型法で形成されたもの)で構成されているため、商品名等の所定の表示を施すためには、印刷ラベルを貼付又は装着しなければならず、製造コストが高いという問題点があった。

【0006】本発明は、上記の点に鑑みて、開閉時に開閉板を離脱させず、良好に開閉板を開閉して取出口を開閉することができる開閉板付き容器を提供することを課題とし、それに加えて、簡易に所定の表示を施すことができる開閉板付き容器を提供することを課題とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するための手段としては、収納された被収納物を取り出可能な取出口3が形成された容器本体2と、前記容器本体2にスライド可能に設けられ、且つ前記取出口3を開閉可能な可撓性を有する開閉板7とを備え、前記開閉板7の表面側が、容器本体2に形成された操作孔6から露出されており、その露出面を押さえながら開閉板7を操作孔6に沿ってスライドさせることにより前記取出口3が開閉される開閉板付き容器に於いて、前記容器本体2には、開閉板7の裏面側のうち、少なくとも露出面の押さえ部分に対応する裏面側を支える支持部8が設けられていることにある。

【0008】かかる開閉板付き容器は、スライド可能な開閉板7の裏面側のうち、少なくとも露出面の押さえ部分に対応する裏面側を支えるための支持部8が設けられているので、操作孔6から露出した開閉板7の表面を指で押さえながら開閉板7をスライドさせる際、その押さえ部分に対応する開閉板7の裏面側が前記支持部8によって支えられることとなり、可撓性を有する開閉板7が湾曲することを防止できる。従って、比較的弱い押圧力で以て開閉板7と指との間に十分な摩擦抵抗を生じさせるため、開閉板7を開閉し易く、しかも、開閉板7が容器本体2から脱落する虞もない。

【0009】上記容器本体2は、射出成形法等の各種の成形法で成形された樹脂成形品、比較的強度を有する紙成形品、金属板成形品等によって構成されていてもよいが、特に、容器本体2が、シート成形(合成樹脂製シートを加熱して軟化させ、金型に真空吸着又は圧空による押圧等して所定形状に成形するシート成形法によって成形されたもの)により形成されていれば、直接印刷を行うことができ、装飾性に優れた所定の表示を簡易に施すことができるので好ましい。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明に係る開閉板付き容器の実施形態を図面を参照しつつ説明する。図1及び図

2に於いて、開閉板付き容器1は、対向する二面2a、2b（天面部2a及び底面部2b）を有し、且つシート成形によって形成された中空状の容器本体2であって、収納された被収納物を取出可能な取出口3及び該取出口3を開閉する開閉板7を外部から操作する操作孔6が天面部2aに穿設された容器本体2と、該容器本体2の天面部2aの裏面に近接した状態でスライド可能で、且つ取出口3を開閉可能な可撓性を有する開閉板7とを備え、該開閉板7の表面の一部は、容器本体2の操作孔6から露出され、該露出面を指で押さえながら開閉板7をスライドさせることにより取出口3を開閉可能であると共に、前記容器本体2の底面部2bには、開閉板7の裏面のうち、少なくとも露出面の押さえ部分に対応する裏面部分を支える支持部8が容器本体2の天面部2a側へ突設された構成からなる。

【0011】前記容器本体2は、予め所定の表示が印刷されたポリエステル、ポリプロピレン、ポリスチレン等の厚さ0.3～2mm程度の合成樹脂シートをシート成形によって形成した天面部2aと底面部2bを互いに嵌着することにより構成され、さらに、該底面部2bは、外面部21と中子部22を互いに嵌着することにより構成されている。より具体的には、図3及び図4にも示すように、所定形状（例えば、平面略長形状等）の天面部2a、外面部21及び中子部22が、断続孔からなるミシン目や凹溝状の罫線等からなる折り目10を介して一体的に連設された構成からなる。

【0012】天面部2aには、容器本体2の収納部16に連通し、且つ被収納物を取出可能な程度の大きさの取出口3が穿設され、且つ該取出口3の近傍に長状の操作孔6が長手方向に穿設されている。

【0013】外面部21の周囲には、容器本体2の側壁部を構成すべく、凸状の側壁部11が突設されており、中子部22を外面部21へ折返して反転させ、該外面部21の側壁部11に中子部22の周囲に突設された逆凸状（凹状）の嵌合部12を嵌着し、更に、天面部2aを外面部21へ折返して反転させ、中子部22の嵌合部12に天面部2aの周囲に突設された脚部14を外嵌着することにより、底面部2bと天面部2aが一体化されて全体として所定形状（例えば、略直方体状等）の容器本体2が構成されている。尚、天面部2aと中子部22や外面部21と中子部22の嵌着は、上記のように凹凸嵌合による手段以外に、溶着や接着によって一体化してもよい。

【0014】前記天面部2aの裏面と嵌合部12（側壁部11に相当）の上面の間には、平面略長形状の開閉板7が円滑にスライドできる程度の隙間15が確保されており、前記天面部2aの裏面と側壁部11の間に開閉板7の両側縁が挿入されて挟持されている。

【0015】かかる開閉板7は、例えば合成樹脂シートや厚紙等のような可撓性を有する板状体からなり、図1

に示すように、開閉板7の幅（W1）は、天面部2aの幅（W2）よりも僅かに短く、その長さ（L1）は、開閉板7をスライドさせた際に取出口3が開口する程度の長さ（天面部2aの長さ（L2）から取出口3の操作孔6側端縁までの長さ（L3）を引いた長さ）に形成されており、その厚みDは、図2に示すように、前記隙間15よりも僅かに薄く形成されている。

【0016】また、容器本体2内には、開閉板7を閉塞位置（取出口3を閉塞した位置）にて係止するためのストッパー部18が設けられている。かかるストッパー部18は、図2（b）に示すように、中子部22から突設された突起状であって、開閉板7の端部が当接しうる曲面状の当接面18aが形成されている。該ストッパー部18の端部に開閉板7の端部が当接することにより、開閉板7は係止されている。

【0017】さらに、容器本体2内に設けられた支持部8は、中子部22から突設され、且つ操作孔6に臨む突起状であって、操作孔6と略同じ大きさの上面を有するように形成されている。

【0018】上記構成からなる開閉板付き容器1は、操作孔6から露出した開閉板7の表面を指で押さえながら、操作孔6の長手方向に沿って開閉板7をスライドさせることにより、開閉板7は、ストッパー部18を乗り越して移動し、取出口3が開口し、開閉板7を逆にスライドさせることにより、取出口3は開閉板7にて閉塞される。

【0019】かかる操作孔6の下方には支持部8が設けられているので、操作孔6に沿って開閉板7を押しながらスライドさせる際、該開閉板7の押さえ部分は、支持部8によって支持された状態となる。従って、開閉板7が湾曲したりすることもなく、良好に開閉板7を開閉することができる。

【0020】また、上記支持部8は、取出口3及び操作孔6の設けられた天面部2aに対向する底面部2bから該天面部2a側に突設されて構成されているため、シート成形法によって容易に形成することができる。さらに、シート成形法で形成できるため、成形前のシートに直接印刷を施しておくことができ、所定の場所に所定の表示を施すことが容易にできる。

【0021】尚、上記実施形態に於いて、容器本体2は、底面部2bが、外面部21及び中子部22（2層以上の複層構造）から構成されているので強度的に有利であるが、必ずしもかかる構成に限定されず、例えば、図5及び図6に示すように、容器本体2を、単一構造の天面部2aと単一構造の底面部2bとから構成してもよく、又、2層以上の天面部2aと、複層構造若しくは単一構造の底面部2bとから容器本体2が構成されていてもよい。

【0022】また、上記実施形態に於いて、天面部2a及び底面部2b（外面部21と中子部22）は、折り目

10を介して一体的に形成されているが、それぞれ別体で形成されていてもよく、又、天面部2a又は／及び底面部2bが複層構造の場合には、一部分が別体で構成されていてもよい。

【0023】さらに、上記実施形態に於いて、容器本体2は、シート成形によって形成されているが、図7に示すように、例えば、側壁部11が周設された底面部2bと、該側壁部11に嵌着可能な脚部14が周設された天面部2aとが射出成形によって形成された容器本体2であってもよい。この際、支持部8は、底面部2bから天面部2a側に突設された突起状に形成すれば、射出成形時にアンダーカット部分を生じないので好ましい。

【0024】また、上記実施形態に於いて、容器本体2は、略直方体状に形成されているが、例えば、略円柱状（平面略円形状）等に形成されていてもよく、その形状は問わない。さらに、開閉板7の形状も上記実施形態の形状に限定されず、例えば、略円柱状の容器本体2に応じて平面略円形状や平面略扇状に開閉板7を形成してもよく、又、容器本体1の平面形状に拘わらず、任意の形状に開閉板7を形成してもよい。

【0025】また、上記実施形態に於いて、支持部8は、操作孔6と略同じ大きさの上面を有するように形成されているが、例えば、操作孔6よりも大きい上面を有するように形成されていてもよく、又、図5及び図6に示すように、操作孔6に臨んだ複数の突起の集合体から支持部8が構成されていてもよく、又、図6に示すように、操作孔6の中央部に長手方向に設けられた直線状の突起から支持部8が構成されていてもよい。要は、支持部8は、開閉板7の露出面の押さえ部分に対応する裏面部分を支えることができるように設けられていればよい。

【0026】さらに、上記実施形態に於いて、取出口3と操作孔6は、別々に穿設されているが、例えば、図5及び図6に示すように、取出口3と操作孔6が連なって穿設されていてもよい。

【0027】さらに、上記実施形態に於いて、ストッパー

一部18は、容器本体2内に突設され、且つ開閉板7の端部が当接する突起により構成されていたが、例えば、図6に示すように、開閉板7の一部に、操作孔6（又は／及び取出口3）に係止可能な突起を設けてストッパー部18としてもよい。

【0028】

【発明の効果】以上のように、本発明の開閉板付き容器によれば、開閉板をスライドする際に、開閉板が湾曲し難く、従って、開閉板が脱落する虞もなく、良好に開閉板をスライドさせて取出口を開閉し、菓子等の被収納物を取り出すことができる。また、容器本体をシート成形によって形成することもできるので、成形前に直接印刷にて所定の表示を施すことができ、従って、従来の射出成形品によって形成されたものに比して、装飾性に優れた容器を安価に製造することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る開閉板付き容器の一実施形態を示す斜視図。

【図2】(a)は、図1のA-A線断面図、(b)は、図2のB-B線断面図。

【図3】容器本体及び開閉板の展開図。

【図4】(a)は、図3のC-C線断面図、(b)は、図3のD-D線断面図。

【図5】本発明に係る開閉板付き容器の容器本体の他実施形態を示す展開図。

【図6】図5の容器本体を組立てた開閉板付き容器を示し、図5のE-E線相当位置でその容器を切断した断面図。

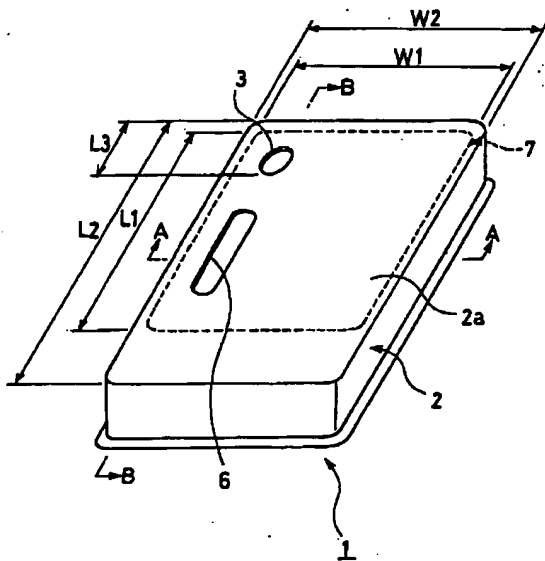
【図7】本発明に係る開閉板付き容器の他実施形態を示し、(a)は、平面図、(b)は、同(a)のF-F線断面図。

【図8】従来の開閉板付き容器を示す一部断面を含む省略斜視図。

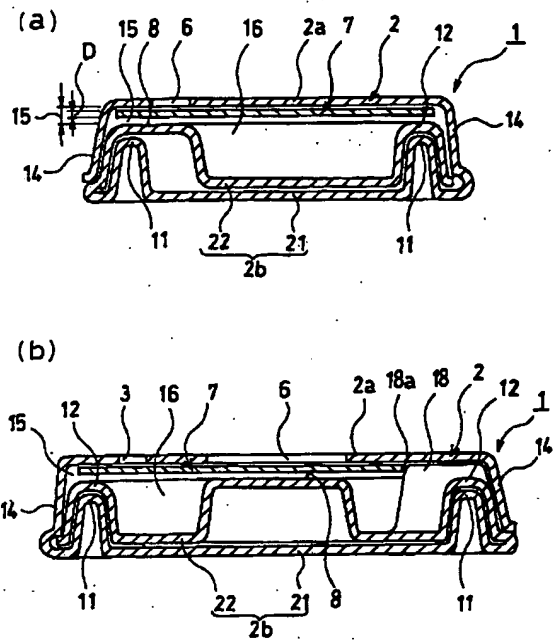
【符号の説明】

2…容器本体、3…取出口、6…操作孔、7…開閉板、8…支持部

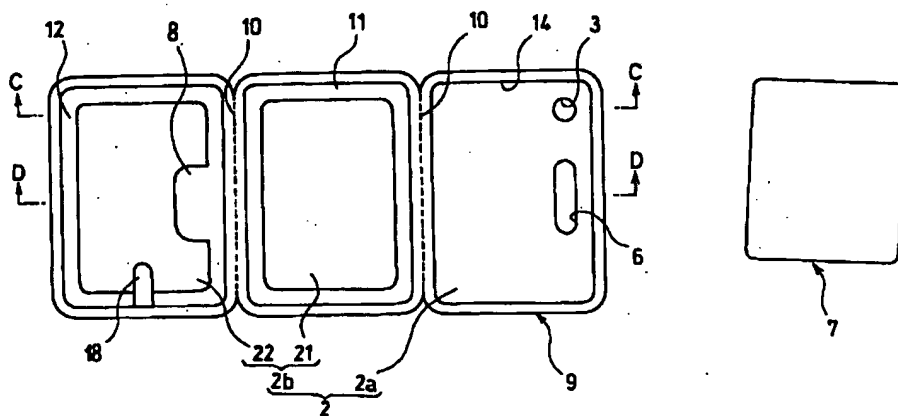
【図 1】



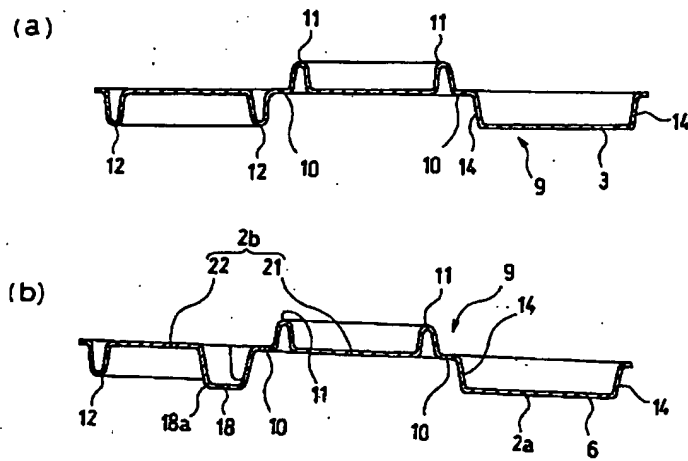
【図2】



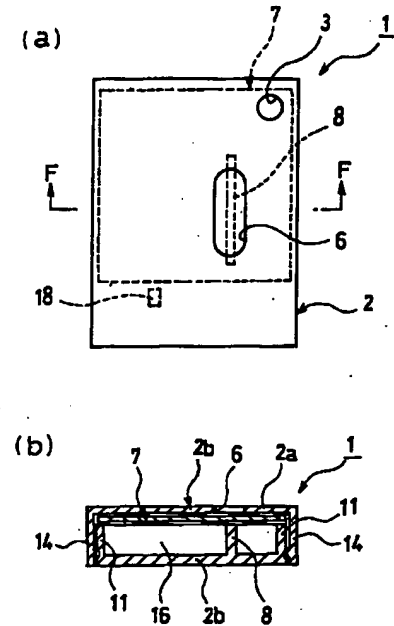
【図3】



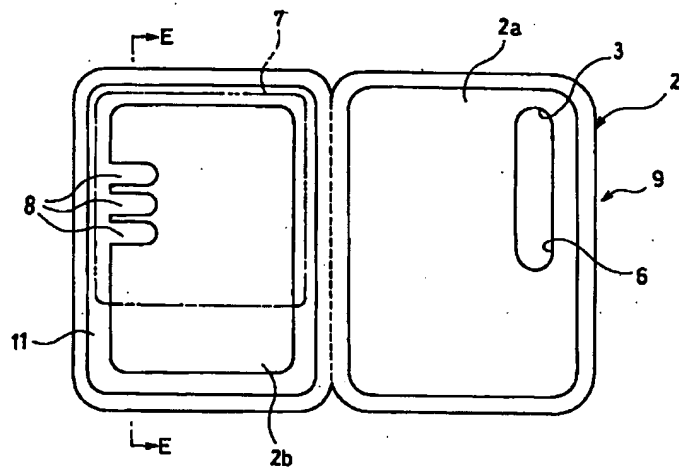
【図4】



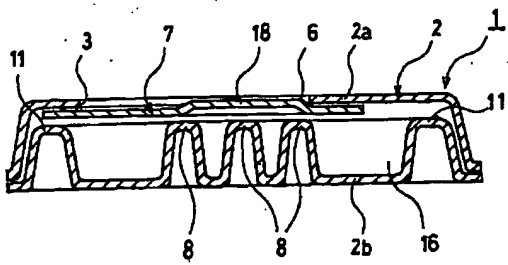
【図7】



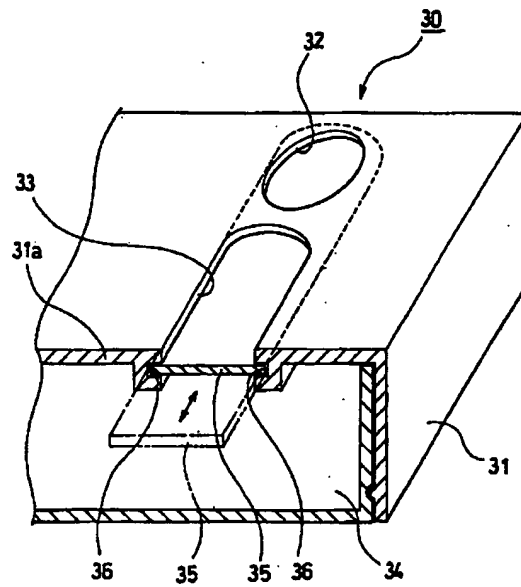
【図5】



【図6】



【図8】



BEST AVAILABLE COPY